

## 洋14-29 (ショートコメント)

### 「エージェント：ライアン」 ★★★

2014 (平成26) 年2月23日鑑賞<TOHOシネマズ西宮OS>

監督：ケネス・ブラナー

脚本：アダム・コザット、デヴィッド・コープ

ジャック・ライアン (CIA分析官、CIA秘密工作員) / クリス・パイン

ウィリアム・ハーパー (CIAのベテラン諜報員) / ケヴィン・コスナー

キャシー・ミューラー (医師、ライアンの恋人) / キーラ・ナイトレイ

ヴィクトル・チェレヴィン (ロシアの投資会社の社長) / ケネス・ブラナー

ロブ・ベリンガー (ライアンの務める投資銀行の上司) / コルム・フィオール

2013年・アメリカ映画・106分

配給/パラマウントピクチャーズ ジャパン

◆ジャック・ライアンは、トム・克蘭シーの人気スパイ小説『エージェント：ライアン』の主人公。『レッド・オクトーバーを追え!』(90年)ではアレック・ボールドウィンが、『パトリオット・ゲーム』(92年)、『今そこにある危機』(94年)ではハリソン・フォードが、『トータル・フィアーズ』(02年)ではベン・アフレックがそれぞれジャック・ライアン役を演じてきた。

しかして、本作ではクリス・パインがジャック・ライアン役を演じるが、本作のミソは、CIAの分析官だった(にすぎなかった)ジャックが、途中からCIA秘密工作員つまり“エージェント”に変身して、CIAのため、祖国アメリカのためにすごい任務をやり遂げることだ。その戦う相手が中国ではなく、ロシアというのは今どき時代錯誤の感があるが、ジャック・ライアンの教育係ウィリアム・ハーパー役にケヴィン・コスナーが、ジャック・ライアンの恋人となる医師のキャシー・ミューラー役にキーラ・ナイトレイが出演することもある。鑑賞することに。

◆2001年にアメリカで起きた9.11同時多発テロは恐ろしい事件だったが、本作でロシアの投資会社チェレヴィン・グループの社長ヴィクトル・チェレヴィン(ケネス・ブラナー)が狙うのは、軍事テロではなく経済テロ、金融テロだ。ジャックにCIAのベテラン諜報員ウィリアム・ハーパーが興味を示し、「是非わが社に」と誘ったのは、彼の経済的知識に目をつけたため。したがって、CIAの財務分析官としてのジャックの仕事は、ウォール街の投資会社で働きながら秘密裏に世界経済における不審な資金の流れをつかむことだ。

それから10年後、彼はロシアのチェレヴィン・グループが持つ巨大な外貨口座へのアクセスができないことを発見。もし、この資金が悪用されたら・・・?そこまではわかるが、それ以上のジャックの説明は、多分ハーパーもわかっていないのと同様私にもよくわからない。そこらの経済テロ、金融テロの中味がイマイチなだけに、以降のスリリングな展開も少し空疎に・・・。

◆2月11日に観た『アメリカン・ハッスル』(13年)では、クリスチャン・ベイル扮するハゲの天才詐欺師とコンビを組む、エイミー・アダムス扮するストリッパーあがりの女の存在感がバッチリだった。しかし、本作ではジャックの恋人キャシー・ミューラーが重要な仕事のためにモスクワに飛んだジャックのホテルまでノコノコと押しかけていくストーリーがちょっと浅はかだ。出張先に女がいるのでは?と疑う女ゴコロがわからないではないが、自分も眼科医として忙しいのでは・・・?さらに、ジャックからCIAのエージェントだと明かされて、浮気ではなかったと喜ぶ姿も、ちょっとバカっぽい。

しかし本作では、ジャックがCIAのエージェントとして限られた時間内に重大な仕事を成し遂げるについて、キャシーがチェレヴィンを引きつけておくという重大な役割が与えられるので、それをいかに処理するか注目!チェレヴィンは国家のために忠実な固い男のようだが、やっぱり美女の前に甘いのは、万国共通・・・?

◆ハーパーが計画を練り、ジャックが実行した、チェレヴィンのオフィスに侵入しての「パクリ作戦」は見事に成功。そして、その後のドタバタ劇の中でキャシーがチェレヴィンに連れ去られた後、ジャックはCIAの分析官という頭デッカチな男ではなく、『ボーン』シリーズでマット・デイモンが演じるジェイソン・ボーンのような見事なアクション能力を発揮し始めることになるのでそれに注目!

チェレヴィンは息子をミシガン州の片田舎に潜伏工作員として送り込んでいた。そんな息子が実行するウォール街の大爆破に呼応して、チェレヴィンが計画した一世一代の金融テロが実行されれば、アメリカの株価は暴落し、アメリカ経済は破綻。それによって、ロシアが世界経済の覇者になる。それがチェレヴィンの描いた筋書きだが、さてジャックはクライマックスに向けて見事にその目論みを阻止できるの?答えはもちろんYESで、ハッピーエンドが待ち受けているが、この展開はちょっと予定調和がすぎる感も・・・?